

意見公募 意見とりまとめ

頁	意見	審議会での取り扱い
	市の計画の最上位に位置するものと解釈して良いか。	<p>ご意見のとおりです。</p> <p>稲城市長期総合計画条例第4条第1項に「長期総合計画は、市の最上位計画とする」と規定されています。</p> <p>ご意見を踏まえ、総論第1章計画についての中に、「計画の位置付け」を追記します。</p>
	実効性のある計画とするため、第四次までの計画の到達状況を基本構想の中に明記すべき。	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。</p> <p>第四次計画の達成状況を踏まえて、基本構想を検討しています。</p> <p>市公式ホームページ 第四次稲城市長期総合計画達成状況等報告書：  <a href="https://www.city.inagi.tokyo.jp/shisei/keikaku_hokoku/choukisougou/yonchou/houkokusyo.html">https://www.city.inagi.tokyo.jp/shisei/keikaku_hokoku/choukisougou/yonchou/houkokusyo.html</a></p>
	世界、日本、地球汚染の改善に貢献しているという視点がない（グローバルの視点が希薄）	この基本構想では、日本全体の諸課題を踏まえ、SDGsを主要な視点の一つに加えています。このことから、第五次計画を推進することが世界、日本、地球汚染の改善に貢献するものと考えます。
	<p>答申案全体を通じて物足りなさがある。</p> <p>基本構想であり、実態は今後固めていくので仕方がないが、施策の大綱については、実例を挙げる、依拠する科学的な考え方が示されていれば説得性のある答申案になった。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。</p> <p>この方向性に沿って、個別具体については、下位の施策や計画等での検討となります。</p>
	<p>少子高齢化対策⇒健康寿命、インフラ老朽化、税収減少</p> <p>老人が増え、若者が減り、労働人口が減るだけでなく、その波及効果は甚大なものが想定される。</p> <p>対策は健康寿命を延ばし、老人パワーの活用。</p>	<p>ご意見のとおりです。</p> <p>基本構想では、生涯を通じた健康の保持・増進の方向性や、高齢者の介護予防や社会参加の方向性を述べています。また、主要な視点として、高齢者も含む、市民の力が活きるまちを目指しています。</p>

	<p>市民の「参加」を一步進めて「参画」に進めていくべき。「市民が参画するまちづくり」の項目を新設し、「市民自治条例」の制定を方針化し、市民と行政の役割と協働の在り方を明確にして欲しい。</p>	<p>市民の参加については、2030年の稲城を描く市民会議からの提言も踏まえ、様々な立場・様々な方法でまちづくりに関わることができることを理想として、より幅広い捉え方のできる「参加」という文言をあえて使用しています。行政に主体的に関わる「参画」はもちろん、市民一人ひとりが可能な範囲で、可能な方法でまちづくりに「参加」できるあり方を目指しています。</p>
	<p>市民会議提言との比較 市民会議の提言から内容が変わっていると感じた。提言では市民同士が交流する場を設けて、市民の力が活躍するまちという基本路線があったが、答申案では、基本的な視点の第一に入っているものの、まちづくりの基本目標や基本構想では薄れている。</p>	<p>「市民の力が活きるまちを目指して」を主要な視点の一つに据えて、基本構想をまとめています。 2030年の稲城を描く市民会議の提言は、市民が主体となった記述です。この基本構想では、この提言も踏まえて、市が行うべきことを明記しています。 市民が参加しやすい環境づくり、コミュニティ・市民活動の支援については、V 市民・行政等に反映させています。</p>
	<p>災害対策の強化⇒避難所、防水防振、南山崖つぶち住宅街 令和元年の台風19号の際、避難所が満杯であり、移送先の避難所は準備が無かった。 南山の新興住宅街は危険極まりない。崖つぶちの住宅街は、震度いくつまで、大雨何ミリまで耐えられるのか。 避難所、防水防振対策をどこまでやるかは、被害想定をどこまで見るかによる。想定被害が、今までの想定を超える規模になってきている。次も想定外の被害では済まない。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。 この中で、避難所や土砂災害の対応については、想定される災害に適切に対応していくことを述べています。 この方向性に沿って、個別具体には、下位の施策や計画等での検討となります。</p>

	<p>大規模災害に備えた対応 事前に想定できる風水害は、早い判断、迅速な連絡が被害の最小化に重要。市民への情報共有も含め、システムの構築、スムーズな運営をして欲しい。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。 この中で、自助・共助・公助が連携した災害に強いまちづくりについて述べています。 この方向性に沿って、個別具体には、下位の施策や計画等での検討となります。</p>
	<p>子育て世代を中心とした人口増加が続いている自治体であることを踏まえ、長期計画では、未来ある子どもたちへの教育を重視して欲しい。 ICT教育は学校だけでなく、家庭での活用も望まれる。家庭による格差が生まれない支援、学校図書館をハブに、リテラシー教育を視野に入れて計画すれば、子どもを通した市民のリテラシー向上、市の発展につながる。</p>	<p>この基本構想では、学校のICT環境整備を想定した上で、情報化社会において必要な教育も含め、学習指導要領に基づいた教育内容の充実の方向性について述べています。</p>
	<p>学校教育のオンライン化 新型コロナウイルスの影響で長期にわたり休校となっている。一方不登校児は増え、効率的に学びの場を作ることの限界を感じる。オンライン化を進め、災害等により物理的に集団で学べない状況になっても学びをとめないことを推進して欲しい。</p>	<p>この基本構想では、国のGIGAスクール構想も含めた学校のICT環境整備を想定した上で、全体的な教育環境の充実に含めて記述しています。 *GIGAスクール構想：一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子ども達一人ひとりに個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現、また、これまでの日本の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す構想。</p>
	<p>学校図書館の情報化 教育環境の充実の中に学校図書館についての記述がないことが残念。教育のIT化の中でも、まず、学校の学習環境として重要な学校図書館の情報化を実現して欲しい。</p>	<p>この基本構想では、学校図書館については、全体的な教育環境の充実に含めて記述しています。</p>

<p>新型コロナウイルスの感染拡大により、社会全体が急激な変容を迫られている中で、喫緊の課題として、経済、保健・医療等があるが、特に子どもの教育の機会が大きく損なわれていること、学校や家庭による教育格差が拡大していることがある。</p> <p>IT環境の整備だけでなく、正確な情報を選び活用する能力、五感をバランスよく働かせる人間力が必要となる。学校図書館を中心に子どもと情報をつなぐ学習情報センターの機能の強化等、その力を育成する教育環境を充実し、子育て世代が選んで住み続けるまちとなれるよう、教育を重視する姿勢を示して欲しい。</p>	<p>この基本構想では、GIGAスクール構想を含めた学校のICT環境整備を想定した上で、全体的な教育環境の充実についてのべています。</p> <p>*GIGAスクール構想：一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子ども達一人ひとりに個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現、また、これまでの日本の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す構想。</p> <p>また、そうしたICT環境を活用しつつ活かせる教育を行うべく、学習指導要領に基づき義務教育内容を充実していく方向性について、述べています。</p>
<p>公民館や図書館等、社会教育や生涯学習への支援が行われているが、博物館や美術館等も必要。市史編纂の成果や文化財を目に見える形で市民に還元して欲しい。市内の美術家等の作品が日常的にみられる場は子ども達の成長に大きな影響を与える。稲城を丸ごと博物館にするエコミュージアムの発想も市民のボランティアで可能。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。</p> <p>この中で、歴史を伝承していくこと、貴重な文化財を守り活用していく方向性について述べています。</p> <p>この方向性に沿って、個別具体には、下位の施策や計画等での検討となります。</p>
<p>障害福祉と災害対策</p> <p>身体に障害があるが、災害時に自分が避難できる環境があるのか、非常に不安。計画や体制検討の際は必ず当事者を検討メンバーに加え、実効性のある対策が立てられるよう、基本原則を長期総合計画に盛り込んで欲しい。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。</p> <p>この基本構想では、自助・共助・公助の考えに基づいた防災施策について述べており、これには、要配慮者の視点についても含んでいるほか、幅広い市民のまちづくりへの参加についても述べています。</p>

<p>新型コロナウイルスが蔓延しているこのタイミングで、都と国にも求めて、多摩弾薬庫跡地返還を実現し、感染症及び大災害等緊急医療専門病棟を市立病院近くに建設し、大地震・大水害等の被災負傷者の治療に専念出来て、一般病棟と共有しなくても良いよう、今後に備えて欲しい。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。感染症や大災害時等の医療については、下位の施策や計画等での検討となります。</p> <p>また、多摩サービス補助施設につきましては、継続して返還要求を行っています。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症について          新型コロナウイルスとどのように共生していくのか、医療、経済、情報、学校、新しい生活様式等、市としての問題点や課題を整理し、計画に反映させて欲しい。          ハザードマップの感染症対策を考慮した再検討が必要。</p>	<p>この基本構想は、2030 年代初頭までを期間とする、市のまちづくりの理念、方向性です。個別具体には、下位の施策や計画等での検討となりますが、新型コロナウイルス感染症の及ぼす影響の全容は、未知な部分も多いのが現状です。</p>
<p>非常時への対応等、職員を削減しすぎるデメリットが見えてきた。健全な行財政運営が単なる人件費削減ではデメリットが大きくなる。必要な職員の確保と育成は極めて重要。生物多様性の保全等の環境問題、非常時の医療崩壊に備えた医療体制の充実、図書館による生涯学習の推進、支援を必要としている子どもや家庭への援助、学校図書館を含む義務教育施設・設備・人材の充実等はスペシャリストの知恵と経験を活かしてこそ行政サービスの向上が望める。          人材資源をいかすためには、スペシャリストの配置という視点を明確に打ち出して欲しい。</p>	<p>国の想定では、今後、全国的に生産年齢人口の減少が加速します。稲城市においても、必要な人材の確保・配置ができなくなる可能性が増して来ます。</p> <p>基本構想では、そうした今後の状況を見据え、職員の能力と組織の生産性を高め、AI等の技術の利活用により事務の効率化を図ることで、多様化する市民ニーズに応えていく方向性について述べています。</p>

	<p>「ほどよく田舎、ほどよく都会」は感覚的である。緑の減少は危機的であり、実態の把握上、ほどよくはどの程度か、できれば数値で表し、明確にして欲しい。</p>	<p>「ほどよく田舎、ほどよく都会」は 2030 年の稲城を描く市民会議の提言にある 3 つのまちの姿の 1 つです。緑と住宅といった物理的な「ほどよさ」はもちろん、ほどよい規模感、ほどよい近所付き合いといった、総合的なまちのあり方を象徴的に表す言葉として使用しています。</p>
	<p>緑について 小田良の里、上平尾地区、南山東部の開発等で森林が急速に減少し、持続可能な開発となっていないと思われる。10 年間の推移と現状把握の上に、第五次計画を位置づけて欲しい。将来都市像にとって、緑の保全、確保は気候変動との関係からも重要な課題であり、しっかりした取り組みと位置づけ、条例も必要。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。現状を踏まえて検討し、この基本構想では、稲城市の魅力である豊富な緑を継承していく方向性について述べています。 この方向性に沿って、個別具体には、下位の施策や計画等での検討となります。</p>
P 2	<p>近隣自治体が人口減少なのに、稲城市は増加とする根拠は。土地地区画整理事業や都市基盤整備で宅地を増やすから人口増となるということか。 ゴーストタウン化が確実視されている中で、防止のためには人口増加を抑える施策が必要。</p>	<p>総務省「自治体戦略 2040 構想研究会」の報告書等に基づき記載しています。</p>
P 3	<p>Society5.0 の実現 市民に分かりやすい表現をして欲しい。 ほどよく田舎とかけ離れた内容。スーパーシティ構想はやっと国会で議題に上っている状況であり、不明な点も多く、この項目は削除すべき。</p>	<p>ご意見を踏まえて、表現を修正します。 また、Society5.0 の実現した社会は、この基本構想で述べている、自然環境の良さ、生活環境の良さ、利便性、人間関係の良さ等を兼ね備えた、「ほどよく田舎 ほどよく都会なまち」と乖離するものではないと考えます。</p>

P 4	「2030年の稲城を描く市民会議」の提言のうち、「緑を減らさない」が十分に反映されていない。また、川に関する記述がない。豊かな自然を守るのが市民の提案なので反映させて欲しい。	自然や川については、基本構想6「ほどよく田舎 ほどよく都会なまち」、施策の大綱 Ⅲ 環境・経済・観光の中に反映させています。
	SDGsとの関連性が示されているが、パリ協定に対する関連性が希薄。	地球温暖化対策の推進については、施策の大綱 Ⅲ環境・経済・観光で取り組むこととしており、これを推進することがパリ協定の達成に貢献するものと考えます。
P 8	シビックプライドについて シビックプライドが自慢話になっている。 稲城市を良くして住んでいることだけが重要ではなく、世界の問題点に関しての稲城市の対策を基本方針に据えることが重要。	この基本構想では、基本的な視点の第1「市民の力が活きるまちを目指して」を中心として、シビックプライドについて述べています。これは、2030年の稲城を描く市民会議からの提言を受けて、基本的な視点の一つに掲げているものです。 シビックプライドは、市民のまちづくりへの関わり方であり、そうした市民の力を活かしてまちづくりを行っていくことを重視する、市の在り方について述べています。
	シビックプライドを持つ市民の力が活かせる循環型社会づくりや、市民と行政の情報の共有、協働でできることと、行政だからこそ担える部分とを、市民・行政双方で考えていく稲城市であって欲しい。	ご意見のとおりです。 この基本構想では、市民と行政が協力し、互いの特徴を理解し合って、それぞれの強みを活かし、補い合いながら、まちづくりに取り組む方向性について述べています。
P 9	SDGsの視点で書いているが、テーマが偏っている。施策の大綱の項目におけるSDGsの17の目標の出現回数が偏っている。2＝飢餓、5＝ジェンダー平等、7＝クリーンエネルギー、9＝産業・技術革新、13＝気候変動、14＝海洋資源（汚染）上記項目に関する施策の充実を求める。	基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。そのため、施策の大綱は市の行政運営の全分野にわたります。表示しているSDGsのアイコンは、SDGsの17の目標、169のターゲットから見て、施策の大綱の各項目に関連するものです。各アイコンの出現回数＝施策の充実度とは考えておりません。

P11	<p>ほどよく田舎、に農地（たんぼ、畑、果樹園）や川の記載がない。また、都市軸の変更が必要な根拠は。地図上の都市軸の先は川だが、新しい橋を作るのか。</p>	<p>図は、ほどよく田舎 ほどよく都会な稲城市をイメージできるよう、主要な要素を図示しています。</p> <p>都市軸については、第五次稲城市長期総合計画期間の中で、変更を検討していくものです。</p>
	<p>緑がゴルフ場と米軍だけなのはなぜか。農地、梨畑、里山、竹林や公園を入れて欲しい。</p>	<p>図の緑の丸は、特に大きなものを図示したものです。</p> <p>緑については、稲城市の骨格的な緑である「緑の環」をはじめ、樹林地、都市農地、公園等、すべてを含んでいます。</p>
	<p>都市軸の見直し</p> <p>「鶴川街道⇒尾根幹線」とあるが、「川崎街道」もある。また、隣の菅とは大丸用水でつながっており、三沢川治水では協力が欠かせない。近隣の多摩区、麻生区、多摩市等と意識的に交流を図ってみてはどうか。市民参画の多文化交流にもつながる。</p>	<p>都市軸は、稲城市の各地域を有機的に結び、魅力あるまちを形成するために設定した生活や交通の概念上の軸のことを言います。</p> <p>鶴川街道、南多摩尾根幹線と同様、川崎街道も市内を走る広域的な幹線道路ですが、現状及びこの先の稲城市の在り方を見据え、都市軸の変更については、第五次稲城市長期総合計画期間の中で検討するものです。</p> <p>また、この基本構想では、都市間交流・多文化交流を推進する方向性について述べています。</p>
P12	<p>項目への「文化」の追加</p> <p>5つの柱の中に「文化」がない。文化は人間にとって生きていくための権利であり、命や暮らしと切り離すことはできない。I.の中に文化を位置付け「子育て・教育・文化」として欲しい。</p>	<p>ご意見のとおりです。</p> <p>文化は稲城市民憲章の一つにも明記されている、市の重要な要素です。I子育て・教育の中に含まれていますが、ご意見を踏まえ、Iの項目名を、「子育て・教育・文化」と修正します。</p>
P13	<p>教育の目的は「人格の形成」とあるが、抽象的。今、教育に求められているのは「豊かな発育を支援する」こと。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。</p> <p>「人格の形成」については、教育基本法に掲げられた教育の目的です。この方向性に沿って、個別具体には、下位の施策や計画等での検討となります。</p>

	<p>青少年の健全育成</p> <p>「青少年リーダー養成」は限られた青少年。あわせて、大多数の青少年の学校外での多様な文化活動の機会への創設と支援が必要。</p>	<p>ご意見のとおりです。</p> <p>この基本構想では、多くの青少年の地域での活動と、青少年リーダーの育成を推進する方向性について述べています。</p> <p>「大多数の青少年の学校外での多様な文化活動の機会」については、地域社会における青少年の育成に含み記述しています。</p>
P14	<p>生きぬく力の育成</p> <p>自然環境での教育を重視・充実させるべき。生きぬく力は自然に学ぶのが一番。そのためにも里山の保全、川の整備、水の浄化が必須。</p>	<p>この基本構想では、自然体験等も含めた教育について、学習指導要領の内容に基づいて記述しています。</p>
	<p>生きぬく力の育成</p> <p>子ども達の主体性が活かされる学習が重要。一人で生きているのではなく、他と依存し関わり合い助け合って生きていることを学ぶ機会を作り出していくことが必要。</p>	<p>ご意見のとおりです。</p> <p>この基本構想では、子ども達の主体性や、自分を大切にするとともに他者を思いやる豊かな心の涵養も含めた教育について、学習指導要領の内容に基づいて記述しています。</p>
P16	<p>健康プラザの積極的な活用を図り、予防医学と社会教育を基盤にしたまちづくりを展開する。</p>	<p>健康プラザの活用については、健康づくりの推進に含み記述しています。</p>
	<p>地域医療体制と市立病院の充実</p> <p>過去の経験から、市立病院を信用することが出来ない。「信頼される病院」であるためには実績が必要。相当な努力・工夫が必要。</p>	<p>市立病院の運営基本理念である「信頼とぬくもりのある医療提供」を実現していくための方向性について記述しています。</p>
P17	<p>シニアの専門知識の活用</p> <p>市全体で見るとシニア人口は2万人近くいる。行政はシニアの専門知識を活用すべき。課題ごとにチームを編成し、専門性を</p>	<p>ご意見のとおりです。</p> <p>この基本構想では、主要な視点として、高齢者も含む、市民の力が活きるまちを目指しています。</p>

	有す市民を交えてはどうか。	この方向性に沿って、方法等の具体については、下位の施策や計画等での検討となります。
	「3 公的医療保険と年金制度の推進」の意味不明。	公的医療保険は国民健康保険と後期高齢者医療制度を、年金制度は国民年金を指します。いずれも国全体の制度ですので、市がこれらの制度を適正に運用することを記述しています。
P 18	地域循環共生圏は環境省が提案して閣議決定された施策で、その中に「地域エネルギーの活用」があるが、この視点が欠けている。	基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。その中で、「地域循環共生圏の形成を推進」することを述べています。 この方向性に沿って、個別具体には、下位の施策や計画等での検討となります。
	排泄、ごみ問題が取り上げられていない。 プラスチック問題は世界の大きな問題。生態系に大きな影響が出ており、議論と取組みが求められる。再生と使用しない方向を目指すべき。	排泄については、IV 都市基盤整備・消防・防犯の2.(3)衛生環境の向上の中で、污水排水整備について述べています。 ごみ問題については、III 環境・経済・観光1.(2)循環型社会づくりの中で、廃棄物の発生回避、排出抑制、再使用、再資源化について述べています。
	本基本構想が掲げる「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」は地球規模の喫緊の課題と向き合うもので、歓迎すべきもの。そのためには、まず、世界に向けて宣言してはどうか。気象非常事態宣言を行う我が国で28番目の自治体となって欲しい。稲城市平和都市宣言に連なり、世界の危機や飢餓を救う意志を示すものとする。	基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。 環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進の方向性に沿って、個別具体には、下位の施策や計画等での検討となります。

	<p>再生可能エネルギーの活用</p> <p>再生可能エネルギーの活用にあたっては、各種の発電されたエネルギーを束ねて必要な負荷に充てる仕組みが必要。</p> <p>また、再生可能エネルギーは、災害時に避難所等に電力を供給する仕組みとなる。老朽化したインフラ補修に合わせ無電柱化を進め、災害用のインフラ作りも必要。</p> <p>無電柱化は、観光によるまちづくりを掲げる稲城市としては、災害対策とともに推進すべき一石二鳥の施策。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。</p> <p>Ⅲ 環境・経済・観光の1.(1)環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進の中で、再生可能エネルギーの活用を推進する方向性について述べており、Ⅳ 都市基盤整備・消防・防犯の中で、災害に強いまちづくりや無電柱化の推進を含む市街地の整備の方向性について述べています。</p> <p>この方向性に沿って、個別具体については、下位の施策や計画等での検討となります。</p>
	<p>稲城市水路網図に載っているが、実際は水のない溝があるだけや、川の形跡がないものもある。急速な土地区画整理事業等の影響でこういった自然環境が破壊されているとすれば、本構想はもっと慎重に練られるべき。水と緑が保全され、その中に住んだり、そこで収穫したり、憩うことのできる土地区画が望まれる。</p>	<p>この基本構想では、Ⅲ 環境・経済・観光の2.(1)自然環境の保全と緑の創出の中で、稲城市の魅力である豊富な緑を継承していくとともに、水と緑の空間を創造し、市民共有の財産として豊かに育んでいく方向性について述べています。</p>
P19	<p>「水と緑の空間を創造」に川の整備、水の浄化を明記して欲しい。</p>	<p>川の整備については、Ⅳ 都市基盤整備・消防・防犯の2.(4)総合的な水害対策の推進の中で、治水・利水の視点から述べており、市民が楽しめる親水機能と生態系にも配慮するとしています。</p>
	<p>緑地や公園を増やすと宣言して欲しい。</p>	<p>この基本構想では、緑を保全し、地域全体で、人と自然が共生できる環境づくりに取り組む方向性を掲げています。</p>
	<p>緑の保全は危機的。アメリカ軍に基地を返還させる意思表示が何もないということは、2030年も現状のままでいいということか。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。</p> <p>個別具体には、下位の施策や計画等での検討となりますが、多摩サービス補助施設につきましては、継続して返還要求を行ってきており、この方向</p>

		性に変更はありません。
	大丸用水の保全と維持 300年を超えて使用されてきている貴重な存在。なくしてはならない。観光事業だけでなく、市民が愛し保全していく運動を全市的に盛り上げていく必要がある。	ご意見のとおりです。 大丸用水も含めた水と緑のネットワークについて、Ⅲ 環境・経済・観光の中で、市民が憩い、楽しめる場として述べています。
	三沢川は東京都管理だが、市として何もできないのか。 親水公園が荒れ果てて見える。改善して、子ども達に川を身近に感じさせるイベントや教育プログラムを盛んに行ってはどうか。	この基本構想では、市内に広がる水と緑のネットワークを活かす情報の発信を充実し、市民が憩い楽しめる場の提供に努める方向性について述べています。 この方向性に沿って、個別具体については、下位の施策や計画等での検討となります。
P20	持続可能な都市農業 農地を保全すると明記されていない。なぜ「持続可能」なのか。	農地の保全については、Ⅲ環境・経済・観光の2.(1)自然環境の保全と緑の創出の中で、樹林地や農地等の身近な緑地の保全について述べています。その上で、持続可能で活力ある都市産業の振興を図るものです。
	「梨やぶどう」に触れていない。農家支援のためにも明記すべき。「稲城ブランドの梨」を守り維持していくことは、子どもの学習面、観光面でも欠かせない。 緑の保全として田園風景を残すため、市民参画による体験型農業公園等の取組みの検討、農地について気候変動の面からも検討し、財政的な保護が必要。	基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。 この中では、梨や高尾ぶどう、野菜等を含め、「都市農業」全体として捉えています。 個別具体には、下位の施策や計画等での検討となります。
	人材⇒人 (商工業の活性化)「人材の育成」とあるが、あくまで人間主体。 「人」の育成にして欲しい。	次世代を担う才能、有能な人物として「人材」と記載しています。

P21	よみうりランドの拡充、TOKYO GIANTS TOWN（仮称） あまり全面に出ると、稲城市の個性が失われてくる。ヴェルデ ィの支援地でもあり、何を中心にするか分からない。	稲城市の既存の魅力、新たな魅力の発掘、そこに新たに加わるよみうりラ ンドの拡充、TOKYO GIANTS TOWN（仮称）どれかを中心とするのではなく、 それらすべてを観光資源と捉えて記述しています。
P22	計画的で適切な土地利用の推進 「用途地域等の変更や地区計画の拡充を進める」とあるのは、 「水と緑」を増やすためか。	この基本構想では、緑を保全し、地域全体で、人と自然が共生できる環境 づくりに取り組む方向性を掲げています。その上で、市街地環境の快適性、 まちなみの美しさの創造等、総合的な住環境を形成するため、用途地域等 の変更や地区計画の拡充を進めるものです。
	地域別に電線の地中化が進んでいるが、多摩川近辺は対象にな っていないので検討してもらいたい。	基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。 電線の地中化については、IV 都市基盤整備・消防・防犯の1.(2)市街地 の整備に含めて述べています。 この方向性に沿って、地域等具体については、下位の施策や計画等での検 討となります。
P23	(4)総合的な水害対策の推進 『浸水被害から市民の財産を守るため』は、『市民の命と財産』 ではないか。の地域防災活動の推進では『市民の生命・財産』 と書かれている。	ご意見のとおりです。 『浸水被害から市民の生命・財産を守るため』と修正します。
	令和元年度の台風の影響で多摩川が氾濫しそうになり、今後も 異常気象が続く中、どのような対策を考えているか。	基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。 水害対策については、IV 都市基盤整備・消防・防犯の2.(4)総合的な水 害対策の推進の中で述べています。 この方向性に沿って、個別具体には、下位の施策や計画等での検討となり ます。

P29	<p>人材⇒公務員 人材の育成を「公務員の育成」として、公務員の資質向上を目指すべき。</p>	<p>ここは自治体経営、行政サービスの項目であるため、「人材」と表記するのが適当と考えます。</p>
	<p>AIやRPAの利活用等、市のSociety5.0に込める意気込みが感じられるが、こうした技術は業務等に沿って応用を作り上げていく必要があり、相当の時間・労力が必要。 一方、定年後の職員の嘱託等での活用で、豊富な経験によるきめ細やかなサービスの提供は直ちに着手できる。 また、業務のテレワーク化を進め、市役所の分散化（サテライトオフィス）により市民との距離を縮めることはサービス向上であり、職員の職住接近も実現する。</p>	<p>市では、すでに定年退職した職員の再任用に取り組んでいます。こうした職員の経験やAI等の技術の利活用を含め、この基本構想では、組織全体としての生産性を高め、効率的な行政運営を図るとともに、より質の高い行政サービスの実現を目指しています。</p>
	<p>多様化する市民の要求やそれに答える行政サービスは専門的な知識と対応が求められ、行政業務の外注化、民営化することは、サービスの質の低下につながる。行政に携わる人の身分を保障し、専門性、継続性、質の高い行政サービスが行える。</p>	<p>基本構想は、市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。 この基本構想では、少子高齢化による労働力人口の減少下においても多様な市民ニーズにこたえていくため、持続可能な自治体経営を進めていく方向性を述べています。 この方向性に沿って、方法等の具体については、下位の施策や計画等での検討となります。</p>
	<p>人口の増加は土地区画整理事業等による新たな住民に支えられている。新たな住民を呼び込むことで税収を確保しようとする、緑がなくなってしまう。 国の補助金や交付金を予算として組み込む作業をさらに、税収の減少を補い、緑と水の豊かな稲城市を築いて欲しい。</p>	<p>財政運営については、V市民・行政の4.(1)健全な行財政運営の中で、少子高齢化をはじめとする、社会環境の構造的な変化にも対応しよう、新たな視点も取り入れながら、強固かつ柔軟な財政基盤を構築するとともに、将来負担の低減を図る方向性を述べています。 新たな視点には、様々な手法での歳入確保も含んでいます。</p>

【事務局から回答】 \*いただいたご意見のうち、内容により審議会での審議の対象とならないものについて、事務局より返答します。

頁	ご意見	事務局の回答
	<p>「基本構想」「基本計画」「実施計画」の三層構造とされているが、今後どのようなプロセスでまとめられ、各プロセスで市民の声を聞くのか。</p>	<p>稲城市長期総合計画審議会からの答申を踏まえ、市では基本構想案を作成し、市議会に議案として上程します。その議案が議決された後、基本計画案を公表し、市民意見公募を実施する予定です。基本計画を策定した後、実施計画を策定します。</p>
	<p>人口について、稲城市は増加としているが、令和2年4月1日の使用料・手数料改定にあたり、市では「今後、人口減少と高齢化が全国的に進む中で持続的に適切な市民サービスを提供し続けるために必要な見直し」と説明しているが、稲城市の人口が増加し続けるのであれば矛盾している。</p>	<p>今後、全国的に人口減少・少子高齢化が進行することは、総務省の研究でも報告されているところです。このことは、地方財政にとって、地方税を国税化する動きや、地方交付税の配分への影響となって現れています。東京都にあり、人口増が見込まれる稲城市においても、その影響は及んでくるものと考えています。</p>
	<p>この答申案についての説明会を行って欲しい。</p>	<p>この答申案は、公募の市民、2030年の稲城を描く市民会議推薦者、各分野の団体の推薦者、学識経験者、市の職員で構成される稲城市長期総合計画審議会が、市長からの諮問に対して、6月末に答申するために作成したものです。この市民意見公募の内容を踏まえて市長へ答申することとなりますので、市民への説明会の開催は予定しておりません。</p>
	<p>この答申案への意見公募について、個別の回答はしないとの方針だが、長期総合計画について、その内容の詳しい説明会を開催し、市民から上がった意見についてどのように考えるのか、基本計画・実施計画の策定で、市民の意見を募集・考慮するのか、双方向の情報共有を実現し、市民が参加できるまちづくりを急いで欲しい。</p>	<p>こちらは稲城市長期総合計画審議会の答申案についての意見公募ですので、いただいた意見は審議会での議論に付します。その内容はホームページで公開することとしておりますので、個別に回答するという趣旨のものではありません。</p> <p>長期総合計画の策定にあたっては、様々な方法で市民の意見を広くお聞きしながら進めてきております。また、今後、基本計画案についての市</p>

		<p>民意見公募を予定しております。</p> <p>最終的な基本構想案は、市議会へ上程し、市民の代表である議員により議論されることとなります。</p>
P 4	<p>「実効性のある長期総合計画」としているが、財源の振り分けが決まっているのか。計画内容の変更はないのか。</p>	<p>基本構想は市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。この基本構想に基づいて、今後、財政的な見通しも含め、基本計画、実施計画を策定していきます。また、期間中に、必要に応じて変更を検討します。</p>
	<p>空間計画 意味がよく分からない。</p>	<p>主に、今後策定する基本計画において、施策等を地図上に表示することで、空間計画としての側面を持たせること検討しています。</p>
	<p>目標数値を表示しているとあるが、どこに記載されているのか。</p>	<p>基本構想は市のまちづくりの基本的な理念であり、方向性です。この基本構想に基づいて、今後、基本計画、実施計画を策定していきます。この基本計画の中で、施策や施策の目標とあわせ、指標の目標数値等を記載していく予定です。</p>
P 28	<p>「市民が必要としている行政情報を積極的に発信・公開」とあるが、情報公開制度を実施している期間が限定されている。すべての行政情報を公開請求の対象にして欲しい。</p>	<p>行政情報については、個人情報等の非公開の内容を除き、公開しています。ただし、文書・資料については、すべてが永年保存されている訳ではなく、その重要性等により保存年限が設けられています。保存場所やデータ容量等、物理的な制約もございますので、ご理解ください。</p>